

第1回鎌ヶ谷市文化財保存活用地域計画策定協議会会議録

開催日時 令和3年6月4日（金） 午後2時30分～
開催場所 鎌ヶ谷市役所庁舎3階 303会議室
出席委員 朽木量会長、山賀正六副会長、福田功委員、渡部郷勝委員、
秦野政則委員、黒沢崇委員（田中文昭委員代理）、青木真也委員、
市村昌子委員、浅野和彦委員、小松崎佳之委員、三石宏委員
事務局 後野副主幹（事）文化係長、大竹主任主事、高木主事補
傍聴者 なし

1 開会

2 委嘱状交付式

- (1) 委嘱状交付
- (2) 教育長あいさつ
- (3) 委員自己紹介

3 会長、副会長選出

会長に朽木委員、副会長に山賀委員を指名
会議録署名人に山賀副会長、福田委員を指名（名簿順により）

4 議題

(1) 文化財保存活用地域計画の趣旨について

事務局より資料に沿って説明

【質疑】

朽木 会長：ワークショップとは具体的にどのような内容で考えているのか現状で計画などがあれば教えてほしい。

事務局：調整中の段階ではあるが、7月くらいに2回にわけて開催予定である。1日目に文化財に関するイメージを膨らませてもらい、2日目に文化財の活用に関する意見をもらうという内容で計画している。人数は20名程度で公募ではなく団体に活動している人に声をかけて参加者を募る方法で検討している。

青木 委員：令和2年度に庁内検討会個別分科会となっているがこの結果はどこを見ればわかるか。

事務局：実施はしているが、今回資料として用意はしていない。アクションプランの検討時に資料として示す予定である。

青木 委員：ワークショップでは文化財を活用する段階の前に大切に思うとか守るといった部分のマインドフローがあったうえで活用を考えるべきではないか。市民と話し合うときには何かを守ろうと思うのはどういう時なのか、自分が守りたいと思うものは何かというところから好奇心を動かしていくと鎌ケ谷にあったものが見つかると思う。

福田 委員：すでにある計画について話し合う、もしくは計画の成果を話し合うのではなく、その前段階の計画そのものについて話し合うのが本会議の目的ということで良いか。

事務局：そうである。今後、文化財をどのように保存活用していくかの方針を協議会で決めていく。

福田 委員：他地域で行なっていることをモデルにしてやるのではないのか。

事務局：鎌ケ谷独自の文化財がある中で鎌ケ谷に合った方針を、これから意見をもらいながら決めたい。また、その方針に向かって、今後どう活用していくかという具体的なプランを協議会の中で検討していきたいと考えている。

(2) 策定までのスケジュールと骨子案について

事務局より資料に沿って説明

【特に質疑なし】

(3) 鎌ケ谷市の文化財の特徴について

事務局より資料に沿って説明

【質疑】

黒沢 委員：鎌ケ谷遺産という用語には、今回の策定で対象とするもの全てが鎌ケ谷遺産ということによいか。

事務局：鎌ケ谷市にある地域資源全体が鎌ケ谷遺産となると思う。

黒沢 委員：鎌ケ谷遺産の対象の定義づけをしっかりとやらないとわかりづらい。骨子案を見ると今まで通りの文化財類型に基づいたようなものばかりなので、本当はもっと多いと思う。

事務局：特徴をとらえなおしていく。

三石 委員：学芸員が歴史学を専門分野としているため、鎌ケ谷遺産に偏りが生じていると感じる。専門的な視点だけでは目が行き届かない部分もあるのでこの協議会においていろいろな立場から意見をもらう必要がある。

秦野 委員：佐津間城跡に教育委員会の文化財看板が付いているがこれは指定文化財ではないのか。

事務局：文化財として捉えてはいるが指定という形にはなっていない。

秦野 委員：佐津間城跡は文化財看板が設置されているが荒れ放題となっている。

事務局：佐津間城跡は、昨年度中心部分の一部について寄付を受けた。その部分を今年度から少しずつ整備していく予定である。

浅野 委員：国指定・県指定・未指定というのがどういう構成でどのような違いがあるのか。また、どういうものを文化財と言うのか教えてもらうことでいろいろな方向に視点が向くのではないか。

朽木 会長：指定されている文化財は保存が決まっており、後はどう活用していくかだと思う。一方で、未指定文化財は、文化財としての価値がはっきりしているが未指定のものと、まだ知られておらず、本当の意味で未指定のもの2つに分かれるのではないか。文化財の活用を考えるときにそれぞれの文化財を単独でみるより、それらをつないで線や面で捉えることが活用で重要になると思う。今後活用を考えていくなれば、鎌ヶ谷遺産という形でより広く活用していこうという姿勢がここから読み取れるが、埋もれてしまいわからなくなっているものの活用について考えて欲しい。

(4) 意見交換

山賀 委員：文化財のツアーを作り史跡を見てもらうと良いのではないか。

福田 委員：鎌ヶ谷散策マップをみて、貝塚や遺跡が鎌ヶ谷に多くあるということを改めて知った。千葉県内でも遺跡が多くあると聞いており、それらと市内遺跡のつながりがどうなっているのか今後知りたいと思った。ほかにもそう思っている人はいると思う。

渡辺 委員：東中沢自治会はこれまで捕込の周知普及のため、貝柄山公園や捕込での祭りや寄席に力を注いできた。私は自治会の一員として力を注いできたがこの協議会も頑張りたい。

秦野 委員：佐津間は澁谷家関係の文化財や佐津間城跡がある。澁谷総司資料室には地域住民だけでなく地方からも見学にくることから歴史的に注目されている。

黒沢 委員：スケジュールでも説明があったが、建造物調査の結果が興味

深いがやはり限定的な調査になるため、鎌ヶ谷市ではどの分野の調査が足りなくて、どの分野の調査が終わっているのか。第2回協議会には現時点での調査状況を把握できていないと、策定に間に合わないと思われる。どのような文化財が鎌ヶ谷にあり、どこの分野の把握が弱いか、逆にどの分野が強いのか、鎌ヶ谷の文化財の特徴はどこにあるのかということ資料として出してもらいたい。

青木 委員：商工業の担当部署として担当に結びつけていけるよう参加したい。

市村 委員：第二章鎌ヶ谷市の概要の自然的地理的概要というところが環境課と非常に結びつきが強いと思った。環境課も自然を保護して活用していくという考えを持っているため、そこが今回の計画とも重なってくると感じている。

浅野 委員：鎌ヶ谷市は市街化調整区域の中でまちづくりを進めている。文化財がその中でどう生かされていくかということも考えつつ、計画策定に参加したい。

小松崎委員：担当課長として良い計画にしなければと感じている。今後も数回会議が続くが、お力添えをお願いしたい。

三石 委員：文化財と言うと市民の方も「文化財」と硬く考えてしまうので、他に何か大事なものがあるかと聞いても文化財しか出てこない。それも文化財だったのかという風に気付いてもらうことが計画を立てる重要なことだと思う。

朽木 会長：鎌ヶ谷市の場合、指定文化財プラス α をどこまで活用できるかが鎌ヶ谷市の特徴になると思う。

事務局：文化財とはどういうものかということも含めて第2回の会議で示していきたい。この計画は、実際にそれを実施する側だけではなく、市民に伝わらないと計画が成り立たないと思う。

(5) その他

協議事項なし

閉会

【会議終了】

以上

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証する。

令和3年7月14日

署名人 山賀 正六
福田 功